令和３年度第1回伊予市地域福祉計画策定審議会・伊予市地域福祉活動計画策定審議会

会　議　録

日　　　時　：　令和3年5月28日（火）　10時30分～11時45分

場　　　所　：　伊予市役所4階　大会議室

出　席　者　：

（委員）　　　森田　清延委員、岡本　正満委員、上本　昌幸委員、植木　規子委員、

　　　　　　　宮崎　澄子委員、水田　恒二委員、高本　英昭委員、上岡　聡委員、

前田　眞委員、岡﨑　晃委員、向井　裕臣委員

　（事務局）　　【福祉課】

　　　　　　　　米湊　明弘課長、松田　智樹課長補佐

影浦ひとみ課長補佐、隅田　知秀主査

【長寿介護課】

丸本　竜士係長

　　　　　　　　【伊予市社会福祉協議会】

　　　　　　　　出来　和人局長、小倉　孝行次長、長田　聡係長

欠　席　者　：　重藤　淳子委員、清水　理香委員、大西　聡委員、釜野　鉄平委員

次　　　第　：　１　開会

　　　　　　　　２　委嘱状交付

　　　　　　　　３　市長あいさつ

　　　　　　　　４　自己紹介

　　　　　　　　５　会長及び副会長選出

６　議事

1. 伊予市地域福祉計画・伊予市地域福祉活動計画について
2. 市民アンケート調査の実施について
3. その他

　　　　　　　　７　閉会

会長・副会長選出　：　「伊予市地域福祉計画策定審議会条例」第5条及び「伊予市地域福祉活動計画策定審議会設置要綱」、要綱の第5条により、会長に前田　眞委員、副会長に上本　昌幸委員を選任する。

会 議 内 容 : 伊予市地域福祉計画策定審議会条例第６条により、会長が議長となり、

　　　　　　　　議事が行われた。

（議長）

それでは、今から議事の進行を進めていきたいと思います。

　今日の議事は主に2つあります。「伊予市地域福祉計画・活動計画について」ということと、「市民アンケート調査」を改めてやろうということで、その市民アンケート調査の実施について、皆さんのご意見を伺っていければいいのかなと思っています。

　それでは早速なのですけども、最初の議事「伊予市地域福祉計画・伊予市地域福祉活動計画について」に入っていきたいと思います。まずは、事務局のほうから計画内容について説明をお願いできますでしょうか。よろしくお願いします。

1. **伊予市地域福祉計画・伊予市地域福祉活動計画について**

（事務局）

「伊予市地域福祉計画」について、簡単に説明をさせていただきます。

　これは、皆さんに資料もお持ちいただいておりますが、「しあわせのまちづくり計画」、こちらは平成21年3月に、第1期伊予市地域福祉計画・伊予市地域福祉活動計画として策定されております。現在は、第3期目の計画となっております。計画の期間は、2018年の4月から2023年の3月までの5年間の計画となっておりまして、今、この計画に基づいて事業を進めているところであります。

伊予市では、伊予市総合計画をはじめとしまして、福祉施策の計画が作成されておりますが、この伊予市しあわせのまちづくり計画が重きを置いている点は、地域福祉ということになります。この地域福祉とは「地域に住む全ての人が、住み慣れた地域の中で、自分らしく生き生きと暮らせるために、共に支え合うこと」というように言われております。

この計画は、伊予市地域福祉計画を伊予市が、伊予市地域福祉活動計画を伊予市社会福祉協議会が主体となって作成をしております。地域福祉計画では、皆様のお手元に今回配っております概要版の表紙にも書かれてありますとおり、基本理念となる「一人一人の住民が、その人らしく、安心して生き生きと暮らせるしあわせのまちづくり」の下に、4つの基本目標を掲げております。概要版を開けていただきましたら、その4つの基本目標も書かれてございます。この目標の下に事業推進に取り組んでおります。今年度は、次の第4期の計画策定に向けてのアンケートの実施、現在の推進の状況を検証をさせていただければ思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（事務局）

私からは、地域福祉活動計画の簡単な内容を説明させていただきます。

　地域福祉計画が社会福祉法に基づいて策定された計画である一方、地域福祉活動計画は法律によるものでも、義務化されたものでもありません。この点が大きな違いです。

地域福祉のニーズが多様化・複雑化している中、公的な福祉制度のみに頼らず、住民参加による地域の支え合いを実現していくために、地域の住民や各種団体が主体的に参加して策定する、民間の活動行動計画です。内容として、地域の在り方へのビジョン、町の諸課題の現状、いつまでにその課題をどのような状態にするかという目標を、そのために誰が何をするのかという方策、役割分担、財源などが盛り込まれていくようです。

地域福祉計画は、行政の立場から、市民一人一人が安心して、協力しながら生き生きと暮らせる地域社会をつくるために、全ての市民参加ができる体制づくりを目的としていますが、地域福祉活動計画は、民間、市民の立場から、市民の地域団体の情報共有や、協働のためのネットワークづくりを強化し、市民の地域福祉への関心を高めると同時に、ボランティアなど福祉活動への市民参加の促進、地域が栄える生活課題への対処など、支援体制づくりが主な狙いです。今回、市と社協のそれぞれの特性を生かしながら、さらに地域福祉を一体的に推進するために、双方連携・協働することが不可欠となります。

　以上で、簡単ではございますが、説明させていただきます。

（議長）

ありがとうございます。今、地域福祉計画・活動計画ということで、少し簡単に説明をしていただきました。この審議会、改めて委員になられた方もおられるかと思いますので、その計画についてのご質問とか案があれば出していただければと思うのですが、いかがですか。

地域福祉計画と活動計画と2つの計画、同時に皆さんでご協議していただく内容になるかなと思うのですが、その違いとかを含めて、皆さんのほうから何かご質問があればしていただければと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。

　地域福祉計画はこれに基づいて作った計画ということで、主に制度をどういうふうに運用していくのかとか、あるいは民間の人たちが活動しやすい枠組みといいますか、受け皿をつくっていくようなところが少しあるかなと。活動計画はどちらかというと、民間の人が自ら動いて、自発的に動いていけるような形のことを応援する、枠組みをつくっていくとか、いろいろなことを決めていくようなことになるのかなというように私は思っています。そういう意味での、先ほど地域共生社会というのがありました。いろんな身の回りにある問題をわが事として捉えていきませんか、それをみんながよってたかって解決する方法仕組みをつくっていきませんか、実際に仕組みだけじゃなくて、実践も含めてやっていこうかなというようなことを、これから目指すべき社会としてあるのかなっていうのがあります。それをうまくこの計画の中に盛り込んでいければいいのかなっていうのと、先ほど市長のほうからSDGsって、持続可能な開発目標という話がありました。ましてや、今コロナに関しての新しい生活様式という形で、ソーシャルディスタンスといって、人と人が分断されるような社会になっています。こういう社会の中で、それでは、先ほどの地域共生社会を実現していくとしたらどんなアイデアを出していったらいいのかとか、分断しながらつながっていくような、少し難しいことをこれから考えて、やっていかないといけない部分が出てくるかなと思います。ぜひ、そういう意味では新しいアイデアも入れながら、今回の計画、大きく変える部分とそうでない部分と少し出てくるかなと思いますので、その辺のところの議論を少し皆さんとこれからできたらいいのかなというように思ってます。

　特になければ次の議題に移りたいと思うのですが、よろしいですか。

　それでは、次の議題に移っていきたいと思います。前回のときもそうだったんですけど、市民アンケート調査というのをやって、市民のニーズを少し細かく拾い上げて、それらに細かく対応していくというようなことをやっていこうというのが、この計画の基本的なことです。発想の原点になる材料を集めようとするところかなというように思っています。その市民アンケート調査本文、少しこれから事務局のほうから説明をいただいた上で、また皆様のご意見を伺いたいなというふうに思います。

　それでは、事務局のほうから説明をお願いいたします。

**（２）市民アンケート調査について**

（事務局）

アンケートの実施についてご説明いたします。

　市民アンケートは第1期から第3期まで、地域福祉計画策定時に実施してきており、20歳以上の市民の中から2,000人を無作為抽出し、郵送で実施しております。

　第1回のアンケートにつきましては、回答数938通、回答率46.9％となっております。第2回アンケートにつきましては、回答数859通、回答率42.95％。第3回アンケートにつきましては、回答数986通、回答率49.3％となっております。

　アンケートの対象者と実施時期についてですが、今回、第4期地域福祉計画策定に当たりましても、前回同様20歳以上の市民の中から無作為抽出の2,000人を対象とし、郵送にてアンケート送付、返信用封筒にて回答をしていただくように考えております。実施時期は審議会での意見を集約し、アンケートの用紙を完成させた後、印刷、封入など必要な準備期間を考慮し、遅くとも今年の9月末までに回収を終了したいと考えております。アンケートの回答期間は3週間程度を予定しておりますので、8月中には発送したいと考えております。

　アンケートの項目についてですが、事前にお送りさせていただいておりました、こちらの「はじめに、あなた自身のことについておたずねします」から始まる、こちらの「しあわせのまちづくり計画」に関するアンケートの修正案をご用意ください。変更箇所につきましてはマーカーでの印と、別でお配りしております、「アンケート変更箇所」にもまとめさせていただいております。変更箇所ですが、問2の性別の選択肢に、選択肢3の「その他」を追加しております。問8では、質問の表現上の変更ですが「転出や転居」となっていたものを、転居してから転出するものと考えて、「転居や転出」に変更しております。続いて問20は、相談先の選択肢に12番「インターネット・SNS等」を追加しております。問22は、社会福祉協議会が実施している事業名を載せておりますが、こちらの選択肢11と12の事業について、現在実施している事業名に変更しております。問23は、情報を得る手段の選択肢8に、こちらも「SNS」を追加しております。続いて、問31は、選択肢1の「なんでも気軽に相談できる場所をつくる」に「充実させる」という文言を追加しております。そのほか、本日欠席の委員より、アンケートの修正についてご意見を頂いております。本来、必要なところで助け合うというものが地域福祉ということになるということで「近所の付き合いや地域行事などへの参加について」というところで、最近はあまりつながりを求めなくなってきている方が多いため、そういった、例えば災害など有事の際に助け合える関係をということで、こちらのアンケートで問12になりますが、「ご近所の方と、今後どの程度の付き合いをしていきたいか」という選択肢の中で「緊急時に助け合える程度の付き合いをしたい」というような選択肢を入れてはどうかとご意見を頂いております。委員からの修正案を含め、変更箇所のご説明は以上になります。

　これまで3回のアンケートを実施してきておりますが、アンケートの内容は大きく変更せず、修正を加えながら実施してきております。今回のアンケートにつきましても、全面的に内容を修正するのではなく、前回アンケートをベースに必要箇所を修正していく方法を、事務局から提案いたします。市民の方にいろいろとお伺いしたいこともあるかと思いますが、こちらの冊子で12頁となっておりますので、このくらいの量で収めるほうが、ご協力いただく方の負担にならないのではないかと考えております。また、専門的なことをお伺いしたいこともあるかと思いますが、伊予市ではほかに、伊予市障害者計画、障害福祉計画、伊予市子ども・子育て支援事業計画、伊予市高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画などを個別に策定しておりますので、今回のアンケートでは地域福祉、いわゆる住み慣れた場所で生き生きと暮らし続けるためにどのような取り組みを推進するべきかという視点で考えていきたいと思っております。

　民生委員のアンケートについてですが、市民向けアンケートと併せて民生委員の方にも、前回3期の計画の際にアンケート調査を実施しております。民生・児童委員は厚生労働大臣から委嘱をされ、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めていただいております。市民児童委員の負担も含めまして、現在102名の民生委員の方が担当地区で活動されており、市民の方からの相談を受けていただいておりますので、地域福祉の現状や、これからの福祉の在り方についてご助言・ご提案をいただけるものではないかと考えております。こちらも、実施時期は市民アンケートと同時期に実施したいと考えております。民生・児童委員アンケートは、本日こちらには用意しておりませんが、経験された事例や担当地区内での住民の意識、また、民生・児童委員としての立場からのご意見をお伺いする予定としております。

　以上になりますが、市民アンケート実施についての説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（議長）

ありがとうございました。今、市民アンケートの内容について、前回からの変更点も含めて説明がありました。補足的に民生・児童委員アンケートを、補足じゃなく、そっちが主体なんですけど、やられるという形にもなるので、そことの関係の中で、今回のアンケートでこの項目を聞けば大丈夫なのかなということが、この事務局からの提案だと思うんですが、皆さん方のほうから内容についてのご意見をどんどんと出していただければと思います。いかがでしょうか。

（委員）

失礼します。まず、このアンケートの内容を協議する前にちょっと確認したいのは、先ほど会長さんからも言われたと思うんですけども、コロナ禍という中でかなり生活が不自由している。それから、この生活は、今までの元に戻るかいうところ、戻らない可能性もあるっていうこと、そこら辺りを、ここに反映されるようなアンケートの設問があってもいいのかなというふうに思います。その中で、今コロナ禍になって、今までの生活と、がらっと変わったとか、ものすごく不自由したのというのを目に見えて見えるようなところが、例えば伊予市のほうの事務局のほうとか、それから社会福祉協議会のほうで、こういうのもかなり困った、こういうことがだんだんと虐げられている、例えばいじめとか貧困とかあります。こういう部分がどうなってるかというのを聞きたいのと、もう一点は、これ、いいのかどうか分かんないですけども、先ほど男女のところが「その他」いうのもあるように、これは二十歳を一番若い人にしてるのがいいのかどうか。例えば、18歳まで選挙権を有してるので、子どもたちの中で困っているようなこともあるのかもしれない。子どもいうのをどこまでがいいのか分からないですけど、高校生なのか何か分からないですけども、例えば選挙に興味を持ってくるような18歳の子どもたちが出てくるようにもしていかんといかんなってふうに、こういう社会問題という様なことにも、少しでも目を向けてもらいたいなというふうに思うと、そこら辺りも考慮してあげるのかなという2点、聞きたいなというふうに思います。

（議長）

ありがとうございます。今の辺り事務局の方、ほかの皆さんいかがですか、今の点に対して。何か、コロナ禍に対してもう少し突っ込んだ言い方、新しいニーズが生まれてきてるんじゃないかなというふうな話が一つと、コロナ禍で派生していろんな問題が起きてる、その辺のところと、もう一つは、若い人たちの意見ですね。少しそういう若い人なりのこともあるんじゃないかなというふうにあったんですが、その辺り、ほかの委員の皆さんいかがですか。いかがですか。

（委員）

委員が言われるように、若い方に対象を広げて、それとやはりこういう状況ですから、コロナ禍に関する設問を設けてもいいかと、私も賛成します。

（議長）

ありがとうございます。じゃあその辺り、事務局のほうからの何かご意見があればですが、出していただければと思うんですけど、いかがですか。

（事務局）

事務局のほうから、コロナ禍についての設問事項ということなんですけれども、今回、新たに項目を増やすということを検討しておりませんでしたので、今時点ではこういう設問がいいかなというのを準備しておりません。設問事項もかなり増えるかもしれませんが、少しそういった視点で入れさせていただけたらいいかなと思いますので、また検討させていただきたいと思います。

　あと、委員さん方言われた、若い方も対象にということで、確かに選挙権というか、その辺りが18歳というところがありましたので、こちらもちょっとどうかと考えてはいたのですが、18歳になると高校生の、学生さんも含まれるような形になるので、どうかと思っておりました。委員の皆さんから年齢を下げるというところのご意見があるようでしたら、年齢も考慮して下げさせていただいたらいいかなと思っております。

（議長）

今、事務局の皆さんのご発言あったんですが、そういう形で進めていっても大丈夫でしょうか。コロナ禍における現状については多分いろんな問題が、報道等も含めてされてて、先ほどの貧困の話だとか虐待だとかいう話もあるし、人と人との分断をされていく部分があるので、コロナ禍でどういうことを困ってるのか、というようなことも、今からやるアンケートだとしたら、そこはやっぱり外さないほうがいいのかな。で、新しい生活様式を提案していく上でも、ぜひその辺りのところを聞けていければいいのかなというのはやっぱり僕も思いました。副会長さん、何か……。

（副会長）

私は先ほども言いましたように、コロナ禍というところで、貧困とか、それから孤立、虐待、こういったのがどのような形で発生しているのかなというのも、そういった実態をやはりある程度知りたいなと思うんですが、これはなかなかアンケートにするのは大変難しいだろうと思うんです。市のほうで高齢者の見守り員さんとか、民生委員さんとか、いろいろ実際しておられる方々と、またつながりを持ちながら、そういった形でぜひこういった、これからアンケート、計画の一番大きな基になろうと思いますが、その辺りをご検討いただいたらなと思っておりますが、いかがでしょうか。

（議長）

これからのことを考えていくと、やっぱりそこの辺は書いておかないといけない部分があるのかな。アンケートだけで完結するわけじゃなくて、今後、地区懇談会ということを多分やられる予定になっていたと思うんですけど、そういう中でも、そういう視点で住民の人たちのニーズを拾い出していくみたいなことができてくればいいのかなと思います。本当はもうちょっと低年齢の子どもさんたちの意識も聞いてみたいこともあるかなと思うのですが、そこは別の調査に委ねていただくこともあるのかなと思います。あまり、ここだけで全部完結するウェイトを占めるというのは少し難しい部分もあるかなと思うので、その辺りを少し選択しながら、アンケート用紙の今の中に項目を少し新しく追加していただければいいのかなと思います。

基本的には定点観測的におんなじ調査項目で変化がどうかというのを見るのが大事なところですけど、今、状況がかなり激しく変わってきている状況なので、このところをやっぱり確認をしておくべき問題なのかなと思うので、ぜひその辺り、事務局のご配慮いただけたらいいのかなというように思います。

　あと、アンケートについて、特に皆さんのほうからありますか。

（委員）

まだあるんですけど、構わないですか。すいません、僕ばっかりしゃべって申し訳ございません。構いませんか。

（議長）

はいどうぞ。

（委員）

2点あるんですけど、このアンケートの中身に関してですけど、問9のとこからずっと連動してるんですけれども、問9と問10は、「地域とは」地域の中における問題っていうことを指摘してるんですよね。問11については「ご近所」になってますよね。ご近所、問11と問12は。この一番問題なのは問9の中には「地域というものをどういうふうに、範囲と考えてますか」の中に「地域の人と」というふうに書いてる人もいる。これを意識したこの下の質問は連動してるかもしれんけど、これが全く、例えば「合併後の伊予市全体」というくくりに入ったときに、この地域じゃなくて、ご近所という範囲をみんながどこまでかいうか分からんじゃないんかなと思うんです。だから、ご近所はどれぐらいまでのとこをご近所というんですかいうとこがあって、そこんとこがないと、そこの中でコミュニティーがちゃんと成立できてますかというところを言われると、ちょっと難しいかなと思って。これをいきなり飛んで入っていくのはちょっと無謀かな、無謀というか、あれかなというふうに、ちょっと感じました。

　もう1点は、ごめんなさい、構わんですか。もうついでに申し上げますけど、問18、問19のところですけれども、問17ですけども「あなたの住んでいる町で不安に思ってることは何ですか」いうことの中で、例えばこ4の「交通体系に関すること」いうのが多分丸を付ける人が、その次の問題に入っていくのかなっていうふうに思うんですけども、交通手段、別に不安に思ってない人は、多分ここは書かないと思うんで。だったら、こういうふうになったときに、ここは問19の質問、4を選んだ方で、みたいなのもいるのかどうか分かんないですけども、そういうのがあった場合に、その下にこういうのを今実際使ってるいうふうになるんですけども、でも、もっとこんなんがあったらいいよねみたいな質問があったら、もう少しみんなが施策の中で役立っていくんだろうと思うんですけど、ここで終わってしまうと、そこで終わったら、次に展開が広がらなくないですか、みんな。というのと、それをどっかに書くようなとこあるんやったら構わんですけど、そこだけがちょっと。この2点、教えていただきたい。もう言いません。

（議長）

まだ言っても大丈夫だと思うんですけど。

　質問のところで言うと、先ほどの問9ですかね。地域っていうイメージでいろいろ聞いてるんですけど、隣近所、向こう3軒両隣っていうイメージなのかなと思うんですけど、その辺の表記が具体的なイメージとして伝わっていくのかどうかみたいなことは、これは表現上の問題かなとは思うんですが、そういうところがどうかなというふうなところが一つですね。あとは、その辺の地域と近所の違いのイメージみたいなものを、どういうふうに捉えていくのか、質問のときにどう伝えていったらいいのかなっていう話が一つです。

　それからもう一つは、問17ですね。交通の問題を特出しして問18、問19で聞いてるっていうのがあります。ここ、交通というより移動の問題と言ったほうがいいのかもしれません。そのときの聞き方として、提案型の聞き方みたいなものができたらいいのかなっていうふうな話もあったかなと思いますけど、こうなったらいいよねみたいなところの設問肢があって、それは少し問19の中身につながっていけるかなと思うんですけど、これは今、現状どのような交通手段使ってますかという現状を知るのと、将来どんな交通があればいいかなみたいなところを1つ聞いてみるというのも、将来の政策に反映させる意味では有効じゃないかなというふうな話だったかなと思うんですが、その辺り、ほかの委員の皆様、いかがですか。どうですか。委員、何かあったら。

（委員）

非常に今年は、アンケートの用紙が来まして、私、素晴らしいことだなと思っとったんですけれども。例えば、ただこの中で、民生委員とか高齢者相談員さんとか市長さんに相談しますとか、いろいろあると思うんだけども。ただし、この中で民生委員さんはそしたら、1年にどのぐらい相談を受けてるのか、区長さんは年間どのぐらい、どういうようなことが、いろいろ質問されたりお願い事が受けているのか、ちょっとその辺を私、聞きたいと思うんです。聞きっ放し、言いっ放しでは何も答えにならない。民生委員さんはこのぐらい、市長さんはいろいろなこと、お世話のこと、願い事が来てるんですよとか、市長さんにはここでお願いしとんですよというふうにあると思うんですよね。私、去年、特に会長さんにはいろいろ長いこと質問するようなことがあったんですけども、それでも素晴らしいことがありまして、区長さんにこの前言うた、安全・安心のまちづくりいうのありますね。会長もまた議長されておると思うんだけれども、私、通学道路危ないんだというようなことで言うたら、すぐ4月は取り上げてくれましたね。市長さんとも、ずっとそこの危ないんだというところを見て回ってもろて、やりましょういう話まで決まっとったんだけど、途中で何か二転か三転か、その当時の人に心配してたの、ちょっと反対されたいうことでストップしてしもうとったんです。そういうことで、いろいろ区長さんとかも、どんなに年間いろんなことがあったんか、民生委員さんはどんなことがいろいろお願い事、相談事が来てるのかいうのも、やっぱり一言、そういうこともここまで入っていくんであれば、やっぱ答えは出てきてほしいと思うんですけれど。

　以上です。

（議長）

ありがとうございます。現状を知らせながら聞いてみるっていう聞き方もあるのかなとは思うけども、どこまでの情報を開示していくのかとかみたいな話は、ここで出てきた意見を今後考えるときに、じゃあ実際相談がどんな状況だったのかとかみたいなのは、検証していくようなやり方もあるのかなと思うので、その辺あんまりアンケートをがらっと変えてしまうと、さっきの定点観測のこともあるので難しい部分もあるかなと思うんですが、ぜひその辺りも検討できればいいかなというふうに思います。質問項目のこの聞き方のことですよね。今、民生委員・児童委員さんには何件ぐらいの相談があるんだけど、皆さんどういうふうに相談しますかって。あんまり誘導してもいけないこともあるので、その辺の客観性を取りながらという形にはなるかと思うので、少し参考意見として聞かせていただきました。事務局のほうも、少し軽く検討した上でどう対応するか考えていただければと思います。

　あと、ほかの人、いかがですかね。

（委員）

失礼します。私も始めてなので、十分内容は分かってないので、突拍子もない質問をするかもしれませんが、ご容赦いただいたらと思います。

　このアンケートを最初にもらったときに、基本的にこのアンケート項目は、今までの累積があるので、それと再評価しなければならないということを伺って­­おりましたので、大幅な変更という視点では、事前に頂いたものを見てないんですが、細かいところでちょこちょこと気になるようなところがあったので、ちょっとご質問をさせていただいたらと思います。

　まず、問9の、すいません幾つかあるので順番にいきます。問9の「あなたにとって地域とは」というところなんですけれども、2に「地元自治会」というふうに表記されていますよね。自治会という言葉を伊予市ではあんまり聞かないんですけれども、これで今までの方は分かっとるんですかね。大体、最近であったら広報区であるとか、私も双海ですから、双海だったら集落とかそういうふうな感じで捉えるんですけれども。自治会というところで言えば、今までの感じ問題がないのなら、それで構わないんですけれども、どの範囲を自治会というのかという。後のほうで大字とか小字とかいう、かっこ書きになっておりましたけれども、その辺りの判断の仕方は人それぞれかなと思っております。

　それから問11、この1ですが「困ったときに何でも助け合う、親しい人がいる」、2「お互いに訪問し合うくらいの人がいる」、この違いってどこがどう違うんだろうって思うんですけども。何でも助け合うっていうことは、ものすごく親戚付き合い的な感覚になるのかなと思うし、お互いに訪問し合うくらいの人、訪問し合う、自由に行き交いする。そんなに変わらんような気もするし、言葉の使い方だと思いますけど、そういったところもちょっとどうかなというふうに、私はちょっと引っ掛かったんです。

　それから、問14ですけれども。すいません、幾つかありますけれども。1「自治会の行事・活動」なんですけれども、私、現職で市の公民館長しているので、公民館の活動も、公民館も入れていただければ非常にありがたいかなというふうにも思いますし、それから、その横の2の「子ども会行事」。伊予市に子ども会って、基本的にあるのかな。愛護班じゃないかなというふうは思うんですけれども。

　それから、4の「老人会と老人クラブ」、どう違うんだろうと。老人会というのは老人クラブに入ってない組織のことを言うのかなとか、いろいろと細かいこと言ってすいません。その辺の違いがちょっとはっきりしなかったな。この質問自体が経験値で判断するのか、アンケートを見た時点の現在地で判断するのか、その辺りをちょっと、自分として、自分がもらったときにどう丸付けたらいいのかなというふうなことも考えていました。その人その人の判断だろうとは思いますけれども。

　すいません、いろいろ言います。それから、問21なんですが、飛んですいません。ここに回答事項がずっとあるんですけれども、20代以上の方がランダム抽選にする場合、大方、多分、年齢的なものはある程度の基準を設けるんだろうと思うんですけれども。20代の人が何人とか、何人程度とかいうふうなのはあると思うんですけれども、この質問を見ていったときに、丸を付けるところを見ていったときに、ちょっと高齢者の方中心の回答になってはいないかなというふうに思います。若い方でどこに、自分が20代とか30代、子育て世代だったらどこに丸付けるかないうたら、丸を付けるところが非常に限られてくるんじゃないかなというふうなことも思いました。

　それからすいません、問28ですが。「福祉サービスの利用に関して、あなたは、これまでに不都合を感じ、また不満に思ったことがありますか」という問い、質問なんですけれども、ある・ない、どちらか二者択一になっていますけれども、これって自分が利用したことがない者にとって、どう答えたらいいのかと、私は思ったんです。例えば、3として「利用したことがない」とかいうふうなものも入れてもいいのかなというふうなことも思いました。

　そして問29、これは利用した人だけの回答になるんであろうなと思っておるんですけれども、先ほどの委員さんのご意見もあったように、何か上下の質問の兼ね合いをいま一度、ちょっと整理されたほうが、より明確になってくるかなというふうには思いました。

　あと、最後というか、問31の設問の8なんですが「高齢者の生きがいづくりをする」というふうな、ぱっと聞かれよるんですけれども。これ、確かによく使うんですけど、高齢者の生きがいというか、これは人それぞれあろうと思います。健康で生きたいという人もおれば、ばっと収入で分けたいという人もおるかもしれんし、長生き何とかかんとかいろいろ考えると思うんですけども、高齢者の生きがいづくりをするという、この生きがいとはどんなことかなと。何か1人ずつそれぞれに判断したっていいのかなと思うわけですが、判断したときに、ただここが多かったけんとかいうんじゃなくて、どういう生きがいを求めているのかとかいうようなところが分かれば、もっとより良いアンケート、具体的なアンケートなるんかなというふうなことも思いました。

　最後です。一番最後。「なお、集計結果は、市ホームページ及びパンフレット等で公表させていただく予定です」なんですが、できれば、いつぐらいには公表の予定ですとかいう、公表時期ぐらいは明記しとってもいいんじゃないかなと思いますが。あくまでも予定ですから、そのとおりする必要はないので。ただホームページに公表する予定ですいうたら、毎日ホームページ見よらんと分からんなってしまう。ある程度の時期を書かれとったほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

　すいません。いろいろ言いました。以上です。

（議長）

委員、細かく見ていただいてありがとうございます。

　質問の内容について1個ずついきたいんですけど、一つは問9ですね。地元自治会という表記がどうかということなんですが、この辺りって皆さん、いかがですかね。地元自治会ってイメージが伝わっていけば。ただ、旧伊予市などは分かるかもしれないけど、双海、中山など分かりにくいかもしれないから、委員、ありますか。

（委員）

委員さんから質問がありました、老人会とあるんですけれども、老人クラブとどう違うかいったら、これ、はっきり言うたら会がクラブなんですよね。会がクラブ、クラブが会。例えば、愛媛県でしたら愛媛県老人クラブ連合会いうて、やっぱ老人会と入っとんですね、会。なぜこのように、ほんとやったら全部老人会、老人クラブと書きゃいいんだけど、私とこが南伊予でも一番、私が会長を受けるときには「老人」という名前は古臭いと。昔これ、全国的にももめたことがあるんです。老人という名前は改正したらどうや、改定したらどうやっちゅうことは、これは全国的に老人会の中でもいろいろ問題があったんですけれども、最終的にはまたやはり老人クラブ、今もやっぱ、先も言いましたように、愛媛県老人クラブ連合会っちゅう名前をしとんです。私たちも今、私とこの地域でも5つクラブがあるんやけども、上三谷、下三谷、八倉、宮下、上野いうてあるんですけれども、私が一番そのことを考えて、名前を私は変更するというふうにして、会長を引き受けるときに言いまして。老人ちゅう名前はもう古臭いということで、なぜならば、老人いうたら何歳から何歳、敬老会も始まって、75歳から老人とした。75歳やから敬老の日でそう決めとんかいう話になって、私は、付けるんやったら老人クラブは付けませんと。で、初めていう私の老人クラブいうたら、上野健友会と付けとんです。老人であってもやっぱり健康で友の会っていうことで、上野健友会。健康にいい友の会と、こう付けたんです。そうすると、みんな名前も全部、5つの会があるんやけど、4つまで皆変更しました。幸福の会とかシルバーの会とかいうて、名前も皆、老人をのけてしまったんです。そういうことで、今も言われましたように、老人会が正常なのか、クラブいうたら大体、会いうことがクラブになるんですけど。日本語にしたら会やけども、英語になったらクラブって、こういうふうに言うんが正常なんやというようなことなんで、実際はどっちをどう呼んだからいうたってどういうことはないんですけれど、意味は、そうやから何もない。

（議長）

ありがとうございます。基本的にはいいけど、答える人たちが意味が分かればいいかなというのはあるかなと思うんです。現状に細かく合わせると、相当細かく書かないといけなかったりするので、その書いてる中身の意味合いが伝わるかどうかがやっぱ大事かなと思います。それで伝わらないようだと少し変えなければいけないのかなというのは感じておるものです。そういう点から考えたときに、自治会という言い方、地元自治会という言い方で伝わるかどうかという話だと思うんです。伝わらないとしたら、さっきみたいな（広報区）だとか集落だとかみたいな、かっこ書きで中身も下に書いて分かりやすくするようなことが少しずつあるのかなと思います。なので、ここで伝わりにくいんだとしたら、さっきの地元自治会（広報区、集落）といったような表記を少し付けたらいいかなという配慮が一つですね。それで事務局のほうが良ければ、そういう形で進めていけたらいいのかなと思います。

　それから問11の、困ったときに何でも助け合う親しい人がいる。これ、相当親しい人ですね。あと、訪問し合うというのが、そこまで親しくないと行き来があるよねみたいなイメージかなとは思ってるんです。これは多分、答える人の感覚で、少し正確な答えではないかもしれないなと思うんですが、このアンケートをしてそういう傾向が少し分ければいいのかなというので、集計するときに、例えば1と2をおんなじものとして集計していくやり方もあったりするので、その辺の傾向の出方によって判断していくっていうこともあるのかなと思います。だけど定点観測的にいうと、少し同じような表現をして、地元の人たちがどう答えて、自分の中ではどう答えてるのかという傾向値を少し見れればいいかなと思うので、これについては、違いは確かにあるんだろうなとは思うんですけど、答える人たちの判断先に任した上で結果がどう出るかというところでの、あと、集計の仕方に少し工夫をしていけばええんかなというふうに思ったりもしました。すいません、事務局の代わりに僕が答えてる、答えてるんですが、僕、違ってたら言ってくださいね。そういうような考え方でどうかなっていうのはちょっと思いました。

　それからあと、問14の、さっき、経験値か現在の状況なのかというのがあるんですけど、実は問13で「あなたの地域の行事、地域活動へ参加した経験がありますか」というふうに聞いてて、それで「参加したことがある」というふうに答えた人が答える項目なので、ここではやっぱり経験値かなと思います。過去で経験したものを含めてここでは回答していただくことになるんかなというのが分かります。

　それから、さっきの老人会、老人クラブです。さっきの健友会とかって言い始めると全部書かなきゃいけなくなったりするので、それは老人のグループの集まりですよということが伝わるような表記であればいいのかなと思うんです。そうすると、老人会とか老人クラブ、もしあれだったら「老人クラブなど」とかみたいな話で、ただ双方、高齢者の人が集まれるいうことが分かっておればいいかなっていう感じはちょっとしました。アンケートなので、答える方にいろんなものを分かりやすい表記は当然いるんだと思うんですけど、そこのところはそういう形でもいいのかなというのはちょっと思いました。

　それからあと、問21のところで、若い人が、高齢者向けの答えしか書いてないじゃないかって話があるのかなと。確かにそれはそうかなというふうに思います。ただ、そこのところをどういう質問で書いていくかというのが、ちょっと事務局とも相談をしながら、若い人が困ってることを、若い人、さっきの対象を18歳にするのか、ここをもうちょっと若い人にするのかによっても違ってくるかなと思うんですが、それは検討しながらまたご回答するという形でよろしいですかね。

　それからあと、問28ですね。「福祉のサービスに関して、不都合を感じ、または不満だったことがありますか」っていう形で、これ、確かにいきなりこうやって聞くと、申請した人であるかないかという話と、その申請してない人が答える権利がここでないかなという気がちょっとしたりするので、この辺の聞き方に関しては少しあるかなと思うんですけど。利用してて「ない」というふうに答えるものと「利用してない」っていうのと、ちょっとここは違うかなと思うので、質問のところでいうと母数が少し違ってくるかもしれないですけど「利用した人にお伺いします」というふうな聞き方をしていくとかみたいなのは、少し後で事務局と相談させていただくんですが、何かそんな表記があると「ない」と答えた人、利用してないのに「ない」と答えた人がそこに入ってしまうと、答えが少し不明瞭になるかなということで、利用した人に限って不満があるかないかというふうな聞き方のほうが、多分正解に近いのかなと思うので、その辺も少し検討させていただけたらというふうに思います。

　それからあと、これも問31なんですけど、これの生きがいづくり、生きがいって何だみたいな話が確かにあると思うんですけど、ここでの項目が、生きがいづくりをするというふうにポイントがたくさんあって、回答者が多くて、じゃあその各生きがいってどうなのかという話につながってくるのかなと思うんです。じゃあ、最初のアンケートで全部そこまで聞いていくよりは、全体の流れを見たときに、生きがいづくりをするという丸付けた人が多かったら、じゃあどんな生きがいづくりにするかというか、次の展開になっていくのかなと思うので、ここではそういう聞き方ができたらいいなというふうに思います。

　それから最後の、ほんとに時期の表示はあったほうがいいですよね。いつごろホームページに公表しますみたいなのはぜひ。時期明示すると、プレッシャーかかって大変かもしれないんですが、逆に後ろが決まると頑張ってやれるということもあるので、ぜひその辺は検討できたらいいかなというふうに思っております。

　ばらばらばらばらすいません、僕のほうで回答してしまったんですが、事務局のほう、ちょっとそこ違うよねみたいな感じがあれば、いかがですか。

（事務局）

失礼いたします。皆様からのご意見、本当にありがとうございました。会長のほうからもいろいろご意見、またはご提案を頂きました。皆様のご意見を頂いたものにつきましては、また会長・副会長交えてこのアンケートの案をもう一度、皆様から頂いた意見を盛り込みながら見直しをさせていただきまして、またアンケート前に、委員の皆様にもこういう形で行ういう形でまたお示しをさせていただいたらと考えております。どうぞよろしくお願いします。

（議長）

はい。じゃあ、もう一度皆さんに確認していただく機会があるということなので、今のご意見を踏まえながら少し中身を変え、変更した上で、もう一度皆さんに提示をするという形でできるかというふうに思います。

　じゃあ、特にアンケートに関して、特にほかないでしょうか。

（委員）

回答方法は、郵送だけでするんですかね。もしあれなら、若い人にするんだったらネット回答もできるようにしたほうが、私はいいんじゃないかなと。これ昔、私、回答したことあるんですけど、やっぱし時間、若い人はこんなものっていう話になると思うんで、回答がもしできるような感じであれば番号、多分、IDかパスワードか何か入れたらできるような感じ。特定の人になると思うんで、その人にID、個人が特定されるので難しいかもしれないんですけど、そうしたら回答率上がるんじゃないかという。多分、過半数、前もいってないと思うんで。統計学上は、大学の先生も聞くところでこういうこと言うのもあれですけど、あんまり信頼度が厳しいかなと、失礼ながら、一市民として言わせていただきました。

（議長）

その辺り、予算とかスキルの問題もあるかなと思いますが、事務局のほう、いかがですか。

（委員）

また今度。いろんな質問が出てると思うんで、それもひっくるめて次回。

（事務局）

分かりました。ありがとうございました。

（議長）

理由として、デジタルトランスミッション、そういう考え方もあったりするので、これからのアンケートのやり方っていうのは少しずつ進化をしていく、進化かどうか分かんないですけど、少し変えていくという発想は少しあってもいいのかなというのは、今のご発言を聞いた中ではあります。ただ、少し準備も含めて、そういう形ができるかどうか、さっきの個人情報の問題も含めてどう対応できるのかというのはいろんな問題があるので、事務局のほうで少し検討させていただいてという形でさせていただければというふうに思います。貴重なご意見ありがとうございました。ほか、よろしいでしょうか。

　それでは、次の議題「その他」という形で、事務局のほうからご説明のほうお願いいたします。

**（３）その他**

（事務局）

失礼いたします。今回、皆様の次第の一番最後のページ、11ページになるんですけれど「計画の検証とスケジュール案」という形で載せさせていただいております。今年度、皆様にお集まりいただけるような、こういった形の会議は、アンケート等の集計ができたらと計画しておりますので、今の会長さんのほうから言われたアンケートの内容ですとか、今日協議していただいたことのご回答というのは、書面の形でお送りをさせていただくような形でご了承をいただけたらと思っております。計画自体が令和4年度も入っておりますが、先ほど会長さんからも言われましたとおり、一部の懇談会ですとかそういったことも今後計画をさせていただきながら、この新たな第4期に向けての計画策定をさせていただきたいと思いますので。委員言われましたような、実際にどういうふうな相談件数があるかなというようなことも、今、令和2年度中の事業のまとめとかをしておりますので、その辺りも会のときに、ほかのものと併せた形でご報告ができたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（議長）

今後のスケジュールについて少しお話がありました。特にご質問がなければ、これでこの審議会は終わりたいと思うんですが、よろしいですか。

　すごく皆さん、貴重なご意見をたくさん頂いてありがとうございました。すごくいい意見が出て、本当に良かったかなというふうに思います。これからも積極的にご発言いただいて、すいませんとか言わずに、ぜひ積極的なご意見を出していただければいいかなというふうに思います。

（副会長）

非常に貴重なご意見、たくさん頂きました。今日、アンケートの内容あたりになりました。これにつきましても、また書面決議という形でされるということで。少しずつではありますが、計画の一番基になりますアンケートの内容について検討をしていただきまして、ありがとうございました。中にはまた、例えばインターネットとか、そういった新しい時代に即したアンケートの仕方とか、それらは意見も出ましたが、新たに、一度に、そこまでいくのは難しいんじゃないかなとは思うんですけれど、でも、今後これは考えていけなければならないことだと思っております。

　今日はありがとうございました。

（議長）

それでは、事務局のほうにお返しします。ありがとうございました。

（事務局）

会長、議事進行ありがとうございました。皆様におかれましても、長時間にわたってご審議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和3年度第1回伊予市地域福祉計画策定審議会・伊予市地域福祉活動計画策定審議会を閉会いたします。なお、第2回につきましては、アンケートの集計作業が終わりました、令和4年の1月頃を予定しておりますので、また日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

　本日はどうもお疲れさまでした。